

衆議院議員 はせ 浩 国政報告

はせ通信

http://www.hasenet.org

年末
特別号

発行所 はせ浩連合後援会
自民党石川県第一選挙区支部
事務所 金沢市南新保町口-24-1新清ビル3F
TEL 076-239-1919/FAX 076-239-1920

vol.48

年末特別企画

馳浩の選ぶ 年間10大ニュース!

2011年 決定版!!

その1 東日本大震災とその復興!

避難民がふるさどに戻り、生活していくために必要なことは何か?

- 放射能の除染 ●新たな土地利用計画を作って町づくり
- ふるさとで生計を立てる目途 ●三重ローン対策

3月11日からもう9カ月となりましたが、瓦礫が処理されただけの津波被害の跡地を訪問すると、民主党政権の対応の遅さに怒りを禁じ得ません。野田総理のもとで、いかにスピーディに復興町づくりを進めるかどうか。となると、

- JR線や公共交通の新たな線引き ●商店街再興
- 行政施設や小学校などの公共施設整備
- 保育園や病院や介護施設などの福祉施設の配置
- 津波から沿岸部を守る堤防の構築、は待たなし。沿岸部は地盤沈下してるから、山を切り開いての高台移転支援も国の責任。

沿岸部の最大産業である水産業再興のための融資も必要。必要な国の支援を、これ以上遅れることなく実行するに限る。そして、厳しい冬を迎えた東北の仮設住宅での生活支援。高齢者が多いので、交流の場作り、居場所作りも大切。福島県では、放射性廃棄物の仮置き場・中間貯蔵施設・最終処分場のめどをつけること。放射能を浴びた福島県民のために、長期的な健康診断、健康影響調査、その結果分析と研究も、継続的な課題です。自然災害や紛争などの、国家的な緊急事態に備える「危機管理法」など、必要な立法措置を、議員立法として提案し、今後の復興のルールを支えたいと思います。



9月13日
本会議・臨時国会会期
4日間に対する
反対討論

4月15日
被災地視察・ボランティア活動
宮城県・山元町にて避難所視察



4月15日
被災地視察・ボランティア活動
桜井・南相馬市長と意見交換

その2 原発事故対策

- まさか、大地震と津波で原発がコントロールできなくなるとは、誰もがいまいませんでした。電力会社や、原発政策を推進してきた政府の大責任です。
- 事故収束を早め、放射線の放出を止める。燃料棒については、「止める・冷やす・閉じ込める」という作業を実施し、そして、廃炉に向けて(30年かかるといわれている)放射性廃棄物の最終処分場をつくることです。
- 福島県で求められることは、徹底したモニタリングと情報公開、除染作業実施、継続的健康調査、環境調査実施です。それがないと安心して故郷に戻れません。低レベル放射性廃棄物の処理も、待たなし。財源も技術も処理場の設置も、地方自治体と相談しながら、政府の責任で対処しなければなりません!

馳浩の選ぶ年間10大ニュース!

その7 統一地方選挙

私の選挙区の金沢市でも、激戦が展開されました。やはり、当時の菅総理の迷走が影響し、民主党は後退し、さりとて自民党が大勝したわけでもなく、無所属が間隙をぬって数議席増やし、投票率の低さがやっぱり際立ちました。地域に密着した現職は、自民党ばかりでなくどの勢力でも強く、「地域間競争」そのもの。県議現職が3名も勇退し、後継候補のいなかった金沢市内の西南部地区は、軒並み投票率が下がりました。地域に市議も県議もない地域は、4年後に向けて、もう熾烈な「候補者選び」が始まっています。谷本知事も、山野市長も、政策遂行に向けて議会の政治地図は他人事ではなく、今回の統一地方選挙の結果に関心が高いようです。

でも、地域密着がエスカレートすると、「あれもこれも!」の要望議員になってしまいます。私も地方議会の論戦を注目していますが、「あれかこれか?」の優先順番をつける時代なのではないでしょうか? となると、金沢市が北陸新幹線開業後の都市間競争を勝ち抜く企業立地戦略とともに、社会的弱者である障害者・子育てママ・高齢者の生活環境支援が最優先ではないでしょうか!

石川県政で、女性県議が一人だけになってしまったことも、困ったことです。女性の視点は絶対必要ですから。革新勢力に多かった女性議員が議席を死守できなかったことも、時代の趨勢です。少子超高齢化時代。税金の使い道を決める権限を持つ議会にこそ、妻や母や娘の感性と代弁者は必要。女性が選挙に出やすい環境づくりをすすめるべきであり、私も立候補者の発掘から始めたいと思います。

その9 義務標準法修正可決(少人数教育)

与野党一致して義務標準法案をまとめました。小学校1年生のクラスの人数を、35人以下に制限し、少人数教育を実現する法案です。来年は、これを小学校2年生にまで拡大し、ゆくゆくは、中学校3年生までの、義務教育すべてに拡大したいと思います。教師の負担軽減とともに、一人一人の子どもに応じた教育が展開されるべきです。

そもそも、この法律に基づいて教員の「義務標準数」が決まります。ただ、それでは、少子化時代では、毎年教師の頭数が減ります。そこで、減少分は「加配教員数」に振り替えることになります。多忙で負担の大きい学校に、級外で学校教育をフォローする人材が必要です。スクールカウンセラー、学校事務職員、司書教諭、養護教諭の複数配置、障害児教育対応、栄養教諭、体育や理科の専科など、きめ細かい教育が展開されるよう、教育環境整備に取り組み続けます。でも、日教組の温床となるような不適格教員は、ちゃんとチェックしますよ!



10月9日
金沢市立戸板小学校
移転新築工事起工式



11月5日
銀河の会・太陽の会
国政報告会・懇親会

その8 サポーター外交

ワールドカップサッカーアジア予選。北朝鮮の平壤で22年ぶりのアウェーの試合がありました。結果は0-1で惜敗。敵地での異様な雰囲気での試合に飲みこまれた様子がわかりました。この試合に、日本から、サポーターを送り込むべしとの主張を展開し、日本サッカー協会の英断で実現しました。拉致・ミサイル・核兵器開発問題で、日本国は北朝鮮に制裁を科していますし、両国に外交関係はありません。しかし、スポーツの国際性と公平性の観点から、どうしても日本人サポーターを現地に送り込み、声援を届けたいという気持ちが強くありました。その昔、ピンポン外交という言葉がありました。いま、時代はサポーター外交を求めていると思います。毅然とした制裁措置とともに、スポーツ交流による世界平和の実現に、少しでも貢献したいと思います。



10月2日
自由民主党金沢支部
街頭演説会

その10 いつもどこかで街頭演説!

有権者に対する政治活動も様変わりしてきました。ツイッターやホームページやフェイスブックの登場です。もちろん私も毎日活用し、情報収集と発信をしています。でも、昔と変わらず続けていることは、街頭演説です。週末の時間の許す限り、一日20か所ほど、街角の交差点に立って、国政報告を語り続けています。「政治を国民の身近な場所で!」を信条に、今日も街角に立ち続けます。

冬場は、母校専修大学の鮮やかな緑色のグラウンドコートを着ています。ちなみに、このコートの生地は、軽くて暖かくて通気性がいい。もちろん、この世界に誇る機能性の高い生地は、石川県産です!!